

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	東串良町			代表者名	東串良町長 宮原 順
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	まちづくり推進課	連絡先電話番号	0994-63-3131
担当者役職	課長補佐	担当者氏名	安松 宏隆	連絡先E-mail	
住所	8931613 鹿児島県東串良町川西1543				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	kinetone活用事業
概要	ノーコード・ローコードツールである「kinetone」について、その基礎的な知識を学ぶことを目的とする。特に、①住民からのオンライン申請の推進、②既存業務のkinetoneへの置き換えによる業務効率化、という二つの方向性を見据え、研修を通じて職員がその可能性を理解し、導入に向けた意識醸成を図る。		
支援を求める分野	人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 行政手続オンライン化 その他		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	244K	令和8年2月3日	支援・助言&講演	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和8年2月19日	講演(実地)	10時00分	15時00分	60
			活動時間（分）	240	
2-2. 派遣場所	会場名	東串良町役場	最寄駅	鹿児島空港	
	所在地	鹿児島県肝属郡東串良町川西1543	最寄駅からの交通手段	バス	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	押川 裕也
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	管理職がDXを単なるITツールの導入ではなく、組織変革と現場の課題解決を実現するための手段であると再定義し、現場職員を支える「伴走者」としてのマインドセットを醸成した点を高く評価する。即時的な数値成果を追うのではなく、失敗を許容し、試行錯誤を推奨する「心理的土壌」を整えたことは、東串良町における持続可能なDX推進の基盤として極めて意義深い一歩である。
アドバイザーへの要望事項	なし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	17人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	17				

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	本研修を通じて醸成された変革への機運を一時的なものに留めず、日常の意思決定プロセスに定着させることが喫緊の課題である。今後は、現場から上がる小さな改善提案を迅速に吸い上げる具体的なコミュニケーションの仕組みを構築するとともに、早期に成功体験を積み重ねることで、組織全体にDXの有効性を浸透させ、推進力を維持していく必要がある。。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	管理職の意識変容を起点として、スモールスタートを容認するアジャイルな意思決定プロセスを組織に定着させる。これにより、現場発の自律的な改善サイクルが継続的に回り続け、蓄積されたデータに基づき住民ニーズへ迅速かつ柔軟に対応できる、機動力の高い行政組織への変容を目指す。
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	管理職が現場主導のDXをいかに評価し、支援すべきかという「伴走型ガバナンス」の習得について支援を受けた。具体的には、他自治体におけるkinetone等の活用事例を参照しつつ、リスクをコントロールしながら試行を認める「アジャイルな判断基準」や、現場の熱量を削がないための声掛け、障壁を取り除く「盾」としての役割について専門的な助言を得た。

支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	「DXには高度な専門知識が必要」という誤解や、慎重すぎる判断が招く組織的な停滞が解消された。他自治体の実践例に基づき、管理職間で明確な判断基準が共有されたことで、「60点でもまずは試す」というアジャイル思考が共通言語化し、現場の創意工夫を阻害することなく機動力を持って変革を推進できる土壌が形成された。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 現場の提案を「止める」のではなく「育てる」ための関わり方を整理した「DX伴走指針(マインドセット)」、および軽微な改善を即座に承認するための「アジャイル判断基準」を策定した。併せて、具体的業務への適用を可視化した「ケーススタディ集」を作成し、庁内におけるDX推進の共通基盤を構築した。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	なし	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 本研修は、スキルの習得度やツールの利便性を問う「形式的な評価」を目的とするのではなく、管理職の根底にある「組織変革へのマインドセットの転換」という、数値化が困難かつ長期的な変容を伴う領域に主眼を置いたため、即時のアンケート実施は見送ることとした。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する 短期的には現場発のスタート案件を管理職が即座に承認・後押しする体制を確立し、中長期的には障壁を取り除く支援型マネジメントをルーチン化する。得られた成功体験を全庁的に共有・評価することで変革の連鎖を生み出し、最終的には蓄積されたデータに基づき、次年度の最適な予算編成や人員配置へと繋げていく。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	デジタル技術を当たり前のインフラとして使いこなし、管理職が現場の挑戦を強力に支える文化が根付くことで、職員が自律的に住民の幸福を追求し続け、変化に対して迅速かつ柔軟に最適解を導き出すことができる「機動力と温かみのある伴走型自治体」を実現する。	

5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

